

1. 単元名 Unit 4 Homestay in the United States ～NEW HORIZON English Course Book 3～

2. 単元の目標

○コミュニケーションへの関心・意欲・態度

- ・間違いを恐れずに積極的に話そうとする。
- ・必要に応じて辞書を活用する。

○表現の能力

- ・have to や will, must などの助動詞を用いた英文を正しく話したり、書いたりする。
- ・have to, will, must を用いて、質問や依頼などに対して適切に応じる。

○理解の能力

- ・have to や will, must などの助動詞を用いた英文を読んで、その内容を理解する。

○言語や文化についての知識・理解

- ・have to を含む不定詞の文、及び、助動詞の文の構造を理解する。
- ・場面や状況にふさわしい英語の表現を知る。

3. 基盤（生徒観は省略）

○ この単元は、外国でのホームステイに関する常識を知るとともに、「率直に丁寧に自分の意思を伝える」と「完璧な英語でなくてもいいから相手に自分の意思を伝えようとする」態度の大切さを含んでいる。このクラスには、ホームステイを実際に経験している生徒がおり、生徒たちは、体験談を聞くことで教科書の内容と実際の生活を結びつけることができ、英語の授業への興味や関心を喚起することができると思う。しかし、実際の生徒の生活の場面において、自分の意思を率直にかつ丁寧に伝えることができないため、トラブルを引き起こす生徒も多い。日本語と英語という言葉の違いはあるが、この題材は、一般的なコミュニケーションに大切なことを気付かせるものに適している。また、助言や忠告など、いろいろな各種助動詞を使うのにも適した題材である。

○ この単元の学習を通して、to 不定詞といろいろな各種助動詞の用法、意味を理解し、運用できる力を養いたい。to 不定詞は既習事項であるが、不慣れな生徒が多いため、新出事項に準ずる扱いとする。指導の流れとしては、教師のデモンストレーションによるオーラル・イントロダクションを行うことで、実際の場面に即して新出事項を導入する。その後、to 不定詞や助動詞に伴う動詞の原形に焦点を当てたパターン・プラクティスや実際の場面設定による表現活動を取り入れることで文構造の確実な定着を図りたい。また、自分から英語を読んで内容を理解したいと思うことができるような教材を取り入れたり、教材の提示を工夫したりして「読むこと」への動機づけとしたい。最終的な目標は、一人一人が思いを表現することで言葉として英語を使いこなしていくことである。そこで、スピーチ活動を取り入れ、学んだ英語の知識を使って「自分の夢」を表現させたい。そして、Starting-Outにある英文は、コミュニケーション一般に大切なことである。自分を伝え、相手を理解することから人と人が結びつくのだということを再認識させるものである。音読練習から暗唱練習へ結びつけ、いろいろな活動の中でこの英文を用いて、「率直に丁寧に自分の意思を伝える」と「完璧な英語でなくてもいいから相手に自分の意思を伝えようとする」態度の大切さを伝えていきたい。

4. 単元の指導計画及び評価計画（全8時間）

時間	学 習 活 動	コミュニケーション への関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化について の知識・理解
第 一 次  2 時 間	・ have to の肯定文、否定文の導入 (オーラル・イントロダクション) ・ 口頭によるパターン・プラクティス	間違いを恐れずに積 極的に話そうとする。 (観察)	have to を用いた 英文を正しく話すこ とができる。(観察)		
	・ 教科書本文の読解 新出単語の確認、内容理解、音読練習	間違いを恐れずに積 極的に話そうとする。 (観察)	have to を用いた 英文を正しく書くこ とができる。 (ワークシート)		have to を用い た文の構造を理解 している。 (ワークシート)
第 二 次  2 時 間	・ have to の肯定文・否定文の復習 ・ will の文の導入 (オーラル・イントロダクション) ・ 読み取り活動	間違いを恐れずに積 極的に話そうとする。 (観察)		書かれた情報につ いて大切な部分を読 み取ることができる。(ワークシート)	
	・ 教科書本文の読解 新出単語の確認、内容理解、ロールプレ イング	間違いを恐れずに積 極的に話そうとする。 (発表)			
第 三 次  3 時 間	・ must の肯定文・否定文の導入 (オーラル・イントロダクション) ・ 口頭によるパターン・プラクティス	間違いを恐れずに積 極的に話そうとする。 (観察)	must を用いた英 文を正しく話すこと ができる。(観察)		
	・ 教科書本文の読解 新出単語の確認、内容理解、音読練習 ・ 教科書本文の読解 新出単語の確認、内容理解、音読練習 ・ 実際の場面設定による表現活動	グループワークにお いて、必要に応じて協 力し合っている。 (観察)	相談されたことに 対して適切に助言す ることができる。 (ワークシート)		場面や状況に応 じて、既習事項を用 いて表現している。 (ワークシート)
第 四 次  1 時 間	・ 「自分の夢」についてのスピーチ活動	スピーチ活動におい て、学んだ表現を使っ たり、辞書などを活用 したりして取り組んで いる。(発表及びスピー チ原稿)	伝えたい内容を語 句や表現を適切に選 択し、表現すること ができる。(発表及び スピーチ原稿)		語句や文の使い 分けを理解し、学ん だ表現の文の構造 を理解している。 (発表及びスピー チ原稿)

5. 本時の学習

- 目標
- ・ 間違いを恐れずに積極的に話そうとする。【コミュニケーションへの意欲・関心・態度】
  - ・ will を用いた英文を読んで、その内容を理解する。【理解の能力】

○展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価
<p>1. あいさつ</p> <p>2. 今月の歌</p> <p>3. 前時の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とっさの一言（ペア活動）</li> <li>・Homestay のスピーチ</li> <li>・教科書の音読（ペア活動）</li> <li>・ワークシートを用いて、have to の肯定文と否定文を復習する。</li> <li>・ワークシートの音読</li> </ul> <p>4. will の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師によるデモンストレーション</li> <li>・生徒の発表（ALT に日本での生活様式を、”I will show you.” を言いながら実際に示す。）</li> </ul> <p>5. 読み取り活動 （インターネット：英語で星占いを利用）</p> <p>6. 本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習の確認をする。（語を並び替えて、will の文の構造を理解する。）</li> </ul>	<p>1. 自然なあいさつになるようにする。</p> <p>2. 率先して歌うことで、声の出しやすい雰囲気を作る。</p> <p>3. 助動詞を含む文に慣れ親しむために、毎時間口頭で練習する。</p> <p>教科書の内容を身近に感じることができるよう、ホームステイを体験した生徒のスピーチを聞く活動を行う。</p> <p>正しい強勢やイントネーションで音読する際のポイントを示す。</p> <p>ワークシートを用いて、普段の生活の中でもコミュニケーションの中で大切なことを示す。</p> <p>4. will を用いる必然性を意識しながら、自然な形で導入する。</p> <p>発表しやすい雰囲気にするために、ゲーム形式で行う。</p> <p>5. will の後ろにくる動詞をキーに読み取ることを伝える。</p> <p>分からない単語は、辞書を活用して調べのように助言する。（辞書の使い方に不慣れな生徒には、個別に支援する。）</p> <p>6. 語順を理解しやすいようにするために、動詞を表すカードは、カラーカードにする。</p>	<p>* 1 場面ごとの英語を聞いて、日本の生活様式を示す活動に積極的に取り組んでいるか。</p> <p>* 2 書かれた情報について、大切な情報を読み取ることができたか。また、別の英文で書かれたものと matching することができたか。（本時終了後、ワークシートを回収して理解の程度を確認する。）</p>

○本時の具体的評価

十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	努力を必要と判断される生徒への具体的な支援
<p>* 1</p> <p>積極的に楽しく、コミュニケーション活動に参加している。</p>	<p>* 1</p> <p>楽しくコミュニケーション活動に参加している。</p>	<p>* 1</p> <p>聞き取りのポイントやヒントを示す。</p>
<p>* 2</p> <p>資料に興味を持ち、辞書などを活用して、正確に内容を読み取ることができる。</p>	<p>* 2</p> <p>資料に興味を持ち、辞書などを活用して、内容をほぼ読み取ることができる。</p>	<p>* 2</p> <p>will の後ろの動詞がポイントであることを知らせ、辞書の活用方法を支援する。</p>

Communication is important.

In English classes,

we ( ) ( ) ( ) English.

But we

( ) ( ) ( )  
( ) perfect English.

We are members of our class.

We have to ( ) each other.



## とっさの一言 in October

1. あなたにお願いがあるのですが。(あなたにお願いことをしてもいいですか。)

May I ( ) you a favor ?

2. そうだ、私たちはできるんだ。

Yes, we ( ) .

3. もう、無理っ。

I ( ) take it.

4. その内わかるって。

You will ( ) .

5. 私がやります。

I ( ) .

6. 検討します。(その件について考えます。)

I'll ( ) about it.

7. なんでもするから・・・

I'll do anything...

8. これでいい？

Will this do ?

9. 悪いようにはしないから。

You ( ) regret it.


10. どうしよう??！(私はどうすべきですか。)

What shall we do ?

## 2年生 冬休みの課題 Express Your HOPE

～これまでのできごとを英文で表現してみよう。また、新年の抱負を英語で表現してみよう。～  
今年の漢字は、「暑」でしたね・・・あなたの今年1年を英単語1語で表現し、それにまつわる英文(3文)を書きましょう。

### これまでの生活を振り返る

<p>WORD</p>  <p>happy</p>	<p>MY EVENTS (わたしの出来事)</p> <p>I <u>studied</u> English hard. (私は英語を一生懸命に勉強した。)</p> <p>I <u>made</u> new friends. (私は新しい友だちを作った。)</p> <p>I <u>practiced</u> golf hard. (私はゴルフを一生懸命に練習した。)</p>
--	--

下線部は、すべて動詞の過去形です。studiedは、studyの過去形で、madeは、makeの過去形で、practicedは、practiceの過去形です。「これまでの生活を振り返ること」は、過去の出来事です。必ず、動詞を過去形にしましょう。

また、あなたの今年1年を締めくくる英単語は、名詞、動詞、形容詞など何でもOKです。ぴったりの単語を見つけてほしいと思います。これを機会に英和辞典や、和英辞典を使ってみるのはいかがでしょうか？



### 新年の抱負を語る

I hope that our students will like English very much.

(私たちの生徒が英語をととても好きになってくれるといいなあとは願っています。)

下線部、I hope thatは、「～と願う、～と希望する」という意味です。自分なりの、新年にあたって思う「～と願う、希望する」ことを英語で表現してみましょう。表現を間違っても構いません。提出後、担当の先生が相談に乗ってくれます。どんどん、自分の願いを表現しましょう。



### 評価について

- ・提出期限を守りましょう。
  - ・これまでの生活を振り返る英文を、過去形の動詞を使って表現しましょう。
  - ・新年の抱負を、I hope that～を用いて、自分の目標に照らし併せて、個性的に表現しましょう。
- 以上3点です。 Good luck.

CLASS (     ) NO (     ) NAME (     )

1. これまでの生活を振り返る。

(1) あなたの今年1年を、英単語1語で表してみよう。

(2) では、それにまつわるあなたに起こった今年1年の出来事を3文以上で表現してみよう。

- \_\_\_\_\_
- \_\_\_\_\_
- \_\_\_\_\_

2. 「今年の抱負」をずばりどうぞ・・・

～2010年を表す英単語は、多い得票数からお知らせします。お楽しみに・・・～